

第4回 鶴岡市文化会館管理運営実施計画アドバイザー会議 会議録（概要）

日時：平成27年8月20日（木）

18時30分～20時40分

場所：鶴岡アートフォーラム 大会議室

〔協議事項〕	(1)「運営主体」について (2)「開館記念事業」について (3)「市民参加」について (4)「管理運営実施計画に記載する項目」について
〔出席者〕	総合アドバイザー：草加叔也氏 地元アドバイザー：梅津芳春氏、柿崎泰裕氏、伊藤裕美子氏、 大久保紀子氏 教育長 教育部長 社会教育課長 文化主幹 芸術文化主査 芸術文化係長 芸術文化係専門員 芸術文化係主事 芸術文化係芸術文化支援員
〔公開・非公開の別〕	公開
〔傍聴者〕	2名

1 開会（文化主幹）

2 協議

(1)「運営主体」について

総合アドバイザー：皆さんご苦労様です。それでは今日のアドバイザー会議を始めさせていただきたいと思います。次第に従いまして(1)「運営主体」について、事務局より説明をお願いいたします。

芸術文化係長：**資料1(P1～5)**により説明。

総合アドバイザー：資料の5ページ目まで、運営主体についてということでご説明をいただきました。これから皆さんの質問やご意見を頂戴したいと思いますが、今は事務局の叩き台の段階ですので、こういう意見も拾っていくべきではないかとか、こういう考えも補っていくべきではないかというようなことも含めて、ご発言をいただければと思います。

まず、私が口火を切っていいでしょうか。1ページを拝見して、指定管理者制度を導入しようというのは市の意志で決定すべきことだと思うので、私がそれに異を唱えるということはありませんが、オープンして間もない時期で制度を導入するのであれば、市の十分なサポートが必要だろうと思います。そもそも指定管理というのは委託行為ではなくて委任行為ですので、市と共同で組織運営をしていくということは本来のことだと思います。そういう意

味では官民協働ということが求められるのではないかと思います。

特にこの中で書き加えなければいけないことではないかもしれませんが、芸術文化団体などを核とした組織に任せてしまうというのではなく、ある部分は市がしっかりとサポートをするということが、きっとソフトランディングをしていく上では凄く重要なことではないかなと思いました。

特に 5 ページに書かれている監査や会計といった点については、十分意思の疎通が出来るように、管理者と市との間をうまくサポートできる人が必要ではないかと思いました。運営する人・仕事をお願いしている人という、上目線だったり下目線だったりしないように、一体的な委任が出来ることが凄く重要なかなと思います。

それから、同じく 1 ページの下に運営主体の基本条件を書き添えていて、この 4 つで構わないと思うのですが、安定的にサステナブルに、活動を成長させていただくということが、凄く重要ではないかと今見させていただいて感じました。

それから、次の 2 ページの新文化会館の運営主体に期待するものの中にも書かれています。芸術文化への知見があること、それから芸術文化によるまちづくりへの貢献みたいなことも、施設の特性上、基本条件の中に入れても良いのではないかと思いました。もう既に考えられていたり、実は文脈の中にそういった意味も含まれているということがあるかもしれませんが、しっかりとまちづくりに寄与していくんだということ、鶴岡という街のアイデンティティになるような施設にしていくということを、謳っていいのではないかなと思います。

他にも、こういったことを付け加えたほうがいいのでは、といったご意見がございましたらご発言ください。

地元アドバイザー：新文化会館に指定管理制度を導入するという話は、当初からされてきましたが、やはり指定管理者のメリットというものを打ち出すべきではないかと思います。民間の活力で新しい施設を運営するという事になるかと思いますが、それは、大きな住民サービスにつながることで、更には市の財政負担にも大きな効果が期待出来そうということも合わせて、指定管理という形になればなおさらいいわけです。

まずは、市と協力しながら、この新しい文化会館の経営戦略をきちんと立て、色々なものを導入し、当然評価をいただきながら運営をしていけば、非常に活力のある施設になると思います。今後の進め方も、ぜひそういった方向性で進めていただければと思います。

地元アドバイザー：以前から指定管理というお話は聞いていて、指定管理のほうが市民は使いやすくなるということはあるかと思うのですが、29年度内は面倒見るよ、でも30年度からはそっちだよと、30年度以降は正職員は手を引くといったように見えますので、もう少し市のサポート体制があってもいいのかなと思いました。

それと、最初から言わせていただいているのですが、今回の文化会館は莫大な予算をかけて建てるものですから、一般の人でも携われるようなものであって欲しいかなと思います。まちづくりの拠点として、そして市役所の方も市民も一体となって、少子高齢化といったこと

も含めて取り組んでいかないといけないと思うので、そういったことが明確に書かれているほうがよいと思います。

地元アドバイザー：私も同じなのですが、4 ページで 30 年度からは指定管理者にほとんど委ねるというように見えて、30 年度は開館記念行事などまだたくさんあるみたいなので、30 年度あたりは、市のサポートとかをしっかりとさせていただいたほうがいいんじゃないかなと思いました。そういうことも含んでこの案があるとは思いますが、そこが凄く不安に感じました。

総合アドバイザー：ありがとうございました。私も申し上げたように、ここからこういうようにきれいに移るわけではないと思うので、そこでハードランディングが起きないように事前の準備が必要だと思います。特に指定管理者を選定するというのでないのであれば、うまくそれが馴染むような移行の仕方を、今から考えておけば準備も出来ると思います。そういうことも配慮をしていただければと思います。

引き続き、開館記念事業について事務局よりご説明をお願いしたいと思います。

(2) 「開館記念事業」について

芸術文化主査：資料 1 (P6) により説明。

総合アドバイザー：ありがとうございます。この内容も一度仮案の時に見ていただいているので、様子はお分かりいただいていると思います。今日改めて少し整理をしていただいたので、これについてご意見をいただこうと思います。

今報告がありましたように、第 1 弾というのが先ほどの運営主体からいうと直営状態で実施をしていく。第 2 弾というのが指定管理機関に係る部分というように見ることも出来ます。場合によっては、第 1 弾の開館記念事業のところから、指定管理者がサポートに入って、そういうことに馴染んでいくことによってハードランディングを避けるというやり方も考えられます。そういったことも含めて、主にはこういうことをやるという内容について、ご意見をいただきたいと思います。

地元アドバイザー：質問なのですが、開館記念事業の第 1 弾と第 2 弾にプロの劇団によるミュージカル公演というものがありますが、片方は子ども向けのもので、片方は本格的なミュージカルという感じなのかなと思うのですが、その違いについて分かれば教えていただきたいです。また、宝塚公演もこの中に入っているのでしょうか。

芸術文化主査：宝塚公演については、実施できるのかどうか、またどの時期になるのかまだ分かりませんが、29 年度に入れている部分につきましては、育成というものも入れていきたいということで、一応子ども向けのを想定しております。それから 30 年度につきましては、ここは同じようなジャンルで多少違うものということになるかと思います。

地元アドバイザー：意見を言わせていただきたいのですが、子ども向けというところについて、どの程度の年代を子ども向けとするかは分からないのですが、できるだけ市民の若い人たちぐらいまでは、参加出来るような団体を呼んでいただけると良いと思います。

舞台に立てるかどうかは分かりませんが、ストレートプレイ(台詞に音楽などを用いない一般的な舞台演劇)も含めて演劇をやろうと思っている高校生や中学生もいるので、ミュージカルとは限定しないで、若い20代ぐらいまでの地元の人たちが一緒に舞台に立てるような、そういうことを考えてくれる劇団を対象に呼んでいただけると良いなという要望です。

地元アドバイザー：ミュージカルですが、鶴岡市出身で劇団四季に所属している方がいらっしゃるからお聞きしたのですが、そういう地元出身の方で頑張っている人を使わない手はないのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。人づてに聞いたのですが、出来た日にはやってみたいとおっしゃっている方もいるようです。

地元アドバイザー：劇団四季に数人は鶴岡市出身の方がいるはずですが、自分たちのカチッとした線を持っている劇団なので、ワークショップはしてくれるかもしれませんが、舞台に立たせるといったことは難しいと思います。鶴岡市出身の人を呼ぶということも事務所があるので何とも言えませんが、もっと育成を一生懸命やってくれるところもあると思うので、プロも色々な選び方があると思いました。

総合アドバイザー：もう既に水面下で色々な情報が飛び交っていて、それは悪いことではないと思います。ぜひこういう時期に、鶴岡市に新しい施設が出来るということが、鶴岡や庄内だけではなく、もっと広いところで情報が伝わっているということは、なおかつ良いことだと思います。

地元アドバイザー：開館記念事業はやはり皆さんが期待しているわけですので、そのへんのところは慎重にやらなければならないということがあると思います。

ミュージカルというのは非常に大掛かりなセッティングにもなりますし、それから若い人で取り組んでいる人も多いと思いますので、そういった点で、みんなでそういったものを持ち上げようということは大事なことだと思います。

また、大きい公演だけではなくて小さい公演も必要だろうと思います。新しい会館には、リハーサル室も兼ねていますが、小さいホールもあるわけですから、そういったところで、寄席ですと高齢者の方とか幅広い年代の方々が好むということもあろうかと思うので、そういったものが気軽に出来ればいいなあと思っています。

今回の案は、活動や育成や創造といった、いわゆる6つの拠点機能について、バランスよく考えているなと思いましたので、概ねこういった形で進めて、あとは具体的な内容を肉付けしていけばいいのかなと思います。まずは、約1年間にわたる開館記念事業ということで、本当に市民の方から毎回来たぞと言われるぐらいの公演が出来ればいいのかなと思いますので、そういった意味でよろしくお願ひしたいと思います。

地元アドバイザー：ラインナップを見て、色々バラエティがあつていいなと思っております。

私はどちらかというと合唱の分野なので、特にベートーヴェンの第九というところを見たときに、地元のオーケストラもありますが地元のオーケストラは定期公演をやっておりますので、やはり開館でしか呼べないようなオーケストラ、あるいは指揮者やソリストを、呼んでいただきたいです。実は十何年ぐらい前までは、第九を何回か鶴岡でもやっており、初めて第九をやるわけでもないということを見ると、ネームバリューも重要かもしれませんが、本当にこう市民と一体感を持って創り上げてくれるような指揮者やオーケストラを呼べるといいなあと思います。

あとプロによるオペラ公演も大変嬉しいのですが、オペラ団体と言っても国内には大きいところは3団体ぐらいしかないので、単独で呼ぶとオペラをやっている時期や、千万単位になると思われる費用が気になります。文化庁の巡回公演といったものがあれば、そこに乗かるのも得策だと思いました。

地元アドバイザー：常に育成というところを考えていて、要望なのですが、第2弾のところにある歌とダンスパフォーマンスによるコンサートについて、どこかの大きなグループを呼んでくださると思うのですが、鶴岡市ではダンスは凄くレベルの高い活動をしていて全国大会に選ばれるような人たちもいるグループもあるので、一緒にやるワークショップみたいなものを付けて、子どもや若い人たちが文化会館で一緒にやったよという思いを抱けるといいなあと思いました。

総合アドバイザー：ありがとうございました。今お話があった招聘公演のように見えるところも、やり方によっては市民との共同でやれるものもあるかもしれませんので、これは1つの叩き台として、今後これを熟考していくことによって、もう少しリアリティのあるものに変えていただければと思います。

それから、この中にどう市民が絡むか。もちろんその第一義的には客席に市民が座るといふことがあると思うのですが、作品によっては舞台に参加するということもあると思いますし、公演が終わった後にアーティストに残っていただいて、ワークショップやクリニックなど派生的な事業も行うなど、将来にわたってアーティストや上演団体とネットワークが出来るような仕組みも考えていってはどうかと思います。

それから、前の運営主体のところもそうだったのですが、もう1ページ使って開館記念事業を実施する目的のようなものも書くと良いと思いました。当然、開館記念事業ですから、施設をお披露目して1人でも多くの市民に新しい施設を見ていただくというのが第一義的かもしれませんが、今まで舞台芸術に触れたことのない市民に触れてもらうきっかけにさせていただくとか、来ていただいたアーティストや上演団体と新しい文化芸術を通したネットワークを作っていくというように、こういうことを目指そう、だからこういうことをやるんだというように出したほうが、説明しやすいと思いました。無理やりそうする必要はありませんが、基本理念から言うところのことだ、その中のこの部分を目指してこういう事業を

やるというような見せ方もあると思いますので、少し考慮して頂いたらと思いました。

それでは次に、(3)の「市民参加」について、事務局より説明をお願いします。

(3)「市民参加」について

芸術文化支援員：資料1(P7~11)により説明。

総合アドバイザー：ありがとうございました。市民参加はこの会館を考える上で最初から重要なキーワードになっていたのので、これまでも色々と議論、それからご意見を伺ってまいりましたが、この内容について皆さんのご意見・ご感想、それからご助言をいただければと思いますがいかがでしょうか。

地元アドバイザー：総合アドバイザーに伺いたいのですが、もぎりや客席案内も含めて、ボランティアスタッフを募集した場合、全国的には結構うまくいっているもののでしょうか。ということと、どんな課題があるのかについて伺えとありがたいです。

総合アドバイザー：必ずしも全てがうまくいっているわけではないですね。今言われたもぎりというものも、プロフェッショナルの方にとってはプロ中のプロの仕事であるので、そう簡単に市民がまねごとで出来るわけがないというプロの方もいらっしゃいます。けれども、誠意を持って、少し時間はかかると思いますが、そういう研修を受けた上でやれないわけではないと思います。

新しいホールですと、長野県の上田市に出来た「サントミュージゼ」というホールでは、開館の約1年前から市民スタッフの研修を重ねて、去年の暮れの開館からは、もぎりや客席案内が主体だったと思いますが、本番の舞台を市民スタッフが対応しています。

それから、つい先日、今年から名前が変わった「セイジ・オザワ松本フェスティバル」に故あって伺ったのですが、今までは市民ボランティアと呼んでいたのですが、今年度から市民スタッフと名前を変えていました。講師の先生から色々なことを教えてもらうだけではなくて、各部門にリーダーとなる市民を置いてやられています。公募をしているのですが、1カ月ぐらいの間で申込をした市民スタッフの数は約260人でした。そんなに大きな街ではないのですが、260人の方が1カ月近くお手伝いをしてくれるということで、フェスティバルに参加することが既に自分たちの誇りであり、それからまちづくり、街をアピールするための1つの手法だし、それから夏の風物詩にもなっているということが、凄くいいなあと思いました。松本の場合は、もぎりや客席案内に加え、グッズ販売や接客など5つぐらいの部門に分かれていて、部門ごとにリーダーを立てて組織的にやられています。松本だとシステムが結構出来ているので、うまくいっているほうだと思います。

ただ、どうしても時間的余裕のある方ですと、どちらかというと高齢者の方が中心になります。ただ学生の方でも、そういうことをやってみたいという方は何人かはいらっしゃると思います。ですから、フェスティバルのように一時的であればやりやすいかもしれませんが、そうじゃない場合は、どうサステイナブルに継続させていけるかということ、少し考えて

いかなければいけないと思います。

よーいドンで全てが出来るわけではないと思いますし、よーいドンで思ったほど集まって来ないかもしれません。逆に言うと、たくさん集まりすぎると、今度はコントロールするのがまた大変だと思います。そんなことも含めて、やること自体は凄く重要なことだと思いますが苦勞も多いと思います。

また、女性の場合だと、衣装の問題やアクセサリーを着けてくるとか着けてこないとか、お化粧が濃いといったことを言わなければいけません。それから、ボランティアの方たちが立ち話をしているのも見た目としてはあまりよろしくないなので、その間だけはきちんと仕切って出来るようにしなければいけない。特にホールのボランティアというものは、福祉のボランティアと違って、無償の労働行為ではなく、アーティストにすれ違えるかもしれないとか、舞台がちょっと見えるかもしれないとか、音楽が聴けるかもしれないという期待が若干あるので、そういうことで参加される方もいらっしゃると思います。そのため、そういった方をうまく誘導してやっていただかないといけないということから言うと、実際には凄く大変です。

ただ、今はそれ以上にやったほうがいいたろうということで、まとめをしていただきました。7ページに目的と効果を書いていただいています。施設に対する認知度や親和性、文化芸術への関心を高めていく、それから支援する機運を醸成していくとか、市民の新しい繋がりを作っていく、地縁・血縁じゃない新たなコミュニティを作っていくといったことは、成果としては凄く期待出来る場所だと思うので、うまくいった場合にはこういうことが出来ます。それを、うまくいくように実際にコントロールしていくことは結構大変かもしれませんが、やりがいのあることだろうと思います。

地元アドバイザー：私も、市民サポーターだけで全てをまかなうのは難しいだろうと思っています。ですから、何を求めるかということ具体的にして吟味をしたり、仮にサポーターだけで補えない場合も想定しながら、募集をしなくてはいけないと思いました。また、サポーターとスタッフという呼び方によって、要求が変わってくるような感じがしました。

総合アドバイザー：少なくともこれは無償の労働行為ではなく、お金もかかるしそれから手間もかかるので、こういう市民ボランティア・市民スタッフというものも、目的を達成するために施設が実施していく事業の1つだと思うと良いと思います。

参加してくれる人も参加して良かったなと思えるようにしなければいけないし、頼んだほうもあの人に頼んで良かったなと思わなければいけないし、そこにいらっしゃる観客も気持ち良く帰っていただく。そういう意味では、理想は高くて実際は大変かもしれませんが、本人も・運営をする人も・それからお客様も、WIN-WINの関係になるような市民サポーターというものを作っていくことが重要だと思います。

地元アドバイザー：私も大変そうだなと思いました。それを先頭に立ってやっていただく人は、普通の人ではまず無理だと思うので、どういう人だとうまくいくのかなと思いました。

私も市民団体の色々な公演を見に行きますが、洋楽でもミュージカルでも、スタッフの方

たちは、衣装は凄く綺麗にされているし、挨拶から席の案内までしっかりしていると感じています。詩吟の場合でも、スタッフの方はお着物を着て、席までご案内をしてくださるのですが、そういったところは自分たちのほうで全て揃えていらっしゃるのでしょうか。

地元アドバイザー：我々の場合は実行委員会形式ですので、色々な団体からお手伝いいただくことが多いです。

酒田市の希望ホールのボランティアですと、その日のお弁当は出たり、また企画立案の会議に参加出来て要望を出すことが出来るので、好きだからやっているという方の意見を聞いたりしています。あと庄内町では、1年間を通してボランティアに参加される人は、欲しい公演のチケットが貰えるとか、何か少しでも良いことがあるのを、楽しんでやっているような感じもしますので、まったく無償というのは少し厳しいかなと思います。

1年、2年、3年と長く続けていただくためには、何かやる側の謝礼や気持ちみたいなものも必要かなと思います。今年2月のワークショップの中では、ポイント制にして、それでお茶や飲み物が飲めたり、公演のチケットと交換したりという意見もありましたので、そういうことも出来るのではないかと思います。

地元アドバイザー：ワークショップでは、自分たちの公演を手伝ってもらった分、逆に相手がやる時に手伝うということも、おっしゃっていましたね。

地元アドバイザー：そうですね。でも、そういったことを管理するということは、かなり大変ではないかなあとも思います。

総合アドバイザー：ちなみに、松本の場合は無償のボランティアで、交通費も払っていないと言っていました。それでも約260人が応募してくれると言っていたので、それが凄く街のプライド、それに参加することが喜びになっているのだろうと思うと、凄いなあと思いました。

地元アドバイザー：短期間だとそういうことも出来るかもしれませんね。

地元アドバイザー：年1回のフェスティバルで、更に小澤征爾さんが関わっているということであれば、当然無償でも参加しようという形になるかと思いますが、今発言がありましたように、弁当を出したりとか、その後も何かメリットがないと、なかなか集まらないというのが実態だと思いました。

それを考えると、ボランティアではなくてスタッフという考え方にして、やはりきちっとした身なりをしてやっていただくということが現実的なのかなと思います。アーティストが来るから幕間から見たり、握手をしたいなといった下心があったりしても駄目だということですので、スタッフを選定する側も大変だろうなあと感じました。

あと2月のワークショップの時も、建設関係の方がこの新しい文化会館に興味を持っておられるというようなことで、建物を見に来られる方が全国から相当多いのではないかと思います。

ようなお話もありました。そういったことへの対応も含めながら、開館までのスケジュール、開館後のスケジュールを検討していかなければいけないと思います。

地元アドバイザー：鶴岡にはアートフォーラムや日本設計さんが設計された加茂水族館、そして今回新文化会館は妹島さんですので、建設業界の人が見に来て損はない建物が多いと思います。

例えば、今は若い学生さんからプロの会までが集まって、金沢市内の金沢 21 世紀美術館といった建物を見て歩くというイベントを SNS などで募集してやっているようです。そうすると寝泊りや飲食もあり、お金を地元で落してくださるということになると思うので、そういった PR もしていくべきだと思います。

総合アドバイザー：そうですね。そういったことを PR したり、そのサポートを市民参加であるということも考えられます。

それから、研修のスケジュールといったことも書いてくれていますが、研修だけをしているときっと飽きてしまうので、どこかでフィールドワークをしたほうが良いです。例えば、出来るかどうかは別にして、ここアートフォーラムや加茂水族館などで、接遇やもぎりといったことが出来てもいいかもしれません。場合によっては、文化会館だけの市民ボランティア・市民スタッフではなくて、市の文化施設全体の市民スタッフという考え方も、場合によってはあるかもしれません。

それで、特にもぎりや客席案内といったフロントスタッフだけではなくて、あまり簡単にはやれないかもしれませんが、劇場ですと舞台技術みたいなことも市民参加でやっているところもあります。それから、外国の方がいらっしゃれば通訳のようなことですか、アーティストが来れば接遇というものもあるかもしれません。色々な才能を持っている方がたくさんいらっしゃると思いますので、そういった市民が持っている才能を生かせるような取組みとしても位置付けていくということが重要なのではないのでしょうか。

入り口としては、今少し議論になったフロントスタッフといったところがいいかもしれません。ただ、スキルアップしてくると、やはり成長したいという気持ちで高いほうを目指していこうとするので、そういうことに少しずつ応えられるような仕組みも考えていく必要があるのではないかと思います。

芸術文化専門員：先ほどお話ありました、酒田市と庄内町のホールの企画運営や当日スタッフの実情について確認したところ、1年または2年に1回、広報等で当日スタッフや企画運営する方を募集しているようでした。ただ両施設とも基本的には無償のようですが、公演の際スタッフの方には弁当を出しているということですし、庄内町のほうは、スタッフの応募時に、予定している年間の公演の中で、スタッフとして参加したい事業と鑑賞を希望する事業に○をつけて応募してもらっていると確認しております。

やはり、ボランティアということだけではなくて、何か少し対価も考えながら、先ほど総合アドバイザーもおっしゃったような WIN-WIN の関係となるような前向きな協力が出来れば

いいなと感じております。

総合アドバイザー：もちろんネガティブな部分というのも十分承知をしておかないといけません。今の段階は計画ですので、どちらかというところをやるメリットを少しあぶりだして、今日の皆さんの意見もそうだったと思いますが、やったほうがいいのかというところを、うまく育てていくという計画にしてはどうかと思います。色々な失敗もあると思いますが、その時には振り返れば良いと思います。まずは、市民がなるべくアクセス出来るようなフェイズを、色々なところで作っていかうというのは良いことだろうと皆さん思われていると思います。

それでは時間もありますので、協議事項の(4)「管理運営実施計画に記載する項目」として、事務局よりご説明をいただこうと思います。

(4)「管理運営実施計画に記載する項目」について

芸術文化係長：**資料2**により説明。

総合アドバイザー：ありがとうございました。まずは、ベンチマークとして実施計画の取りまとめをしておいて、それを土台に具体的な戦略や戦術を考えていかうというのは重要なことだろうと思います。

今その中に取り込む課題として、こういうものを記載したらどうかとお考えになられているということでしたが、今日の議論を踏まえて、こういうことも入れてはどうかとか、順番はこうではないかとか、ヒエラルキーはこうつけたほうがどうかとか、忌憚のないご意見を伺えればと思います。

芸術文化係長：いきなり意見というわけにはいかないところもあるかと思いますが、場合によっては今日に限らずでも結構ですので、こういったところはどうなっているのかとか、こういったところは盛ったほうが良いのではというようなところがあれば、事務局のほうに随時いただければ、ぜひそういったものも盛り込んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

総合アドバイザー：収支計画にどこまで書き込むかというところはありますが、公立文化施設の場合、収支が黒字になるということがあまり考えられないため、市が毎年これだけ出していくという覚悟を、どこかでしていただく必要があると思ひます。思っていたのと違うよということにならないようにするためには、重要なポイントでもあります。

それから、利用される方は、なるべく利用料金は安いほうが良いと言われるのですが、かかる経費が同じだとすると、安くした分は使わない市民の方も含めた市の税金で負担することになります。受益者負担の原則ということにもつながるので、何でもかんでも安ければいいというわけではないと思ひます。市民全員がこの文化施設を使ってくれるようになると、安くしようよ、あとは市に負担をお願ひしようと言ひ切れるのですが、使わない人の税金か

らも、うっすらと集めてくるというのはいかがなものかなと思うと、単純に安くするのはどうだろうという気がします。そういうことも認識した上で、書いていかなければいけないと思いました。

地元アドバイザー：この施設は合併特例債を使って建てるということになるわけですが、考え方として、特例債を使うということで、いわゆる我々が考えている全体の費用から圧縮出来るんだよという考え方で進んでいいわけですね。ということで、利用料金的なものも、酒田の希望ホールに比べて鶴岡がぐんと高くなるということは、今の段階では想定はしていないという捉え方で進んでいいのかなと思います、そのへんのところの考え方はいかがでしょうか。

文化主幹：これから、利用料金も含めて、どういう考え方というものをお示しすることになるかと思いますが、利用料金については、ただいまアドバイザーがおっしゃったように、近隣の料金ですとか、あとは類似施設の料金、それから鶴岡市内の地域事情というようなところとのバランスを見ながら、適切なところで判断させていただきたいと思っております。

地元アドバイザー：利用料金について、今回建てるにあたって青年センターを取り壊したわけですが、そこを使っていた方、鶴岡市にお住まいの方で40歳以下の人には、少し安くお貸しできるようなことも考えていただければと思います。

総合アドバイザー：そういったことも検討の1つの指標として頭の隅に入れていただいて、ご検討いただければと思います。

まだ、この項目だけだと意見が言いにくい部分があるかもしれませんが、こういうことはぜひ実施計画の中に明記しとくべきだということがありましたら、後日市のほうに届けていただければと思います。

他になれば、今日いただいた意見ですとか、ワークショップ等でいただいた意見を踏まえて、次回までに事務局で検討を積み重ねていただき、次回のアドバイザー会議で、再度ご提案をしていただきたいと思います。

最後に、その他のところについて、ご説明をお願いします。

3 その他

(1) 改築工事の進捗状況について

芸術文化係専門員：改築工事の進捗状況について説明。

芸術文化係長：文化会館休館中の支援策について、学校からの申請状況等説明。

(2) 今後のスケジュールについて

社会教育課長：次回のアドバイザー会議は、最終的な実施計画の案を事前に示して、それに対してご意見をいただきたいこと、日程は候補を示して調整後に開催することについて説明。

4 閉会

教育長：あいさつ

文化主幹：以上をもちまして、第 4 回鶴岡市文化会館管理運営実施計画アドバイザー会議を終了します。どうもありがとうございました。

以上